

## 社会調査士の養成

総合情報学部・社会情報学科

森 裕一・黒田正博・泉 俊弘・水谷直樹  
井上堅太郎・西野雅二・高野洋志

### 1. 社会調査士とは

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場調査、社会事象を捉えることのできる能力を有する「調査の専門家」のことである。この「調査の専門家」であることを証明する資格が、社会調査士認定機構が認定する「社会調査士」と「専門社会調査士」である。

この資格の創設には、多様化・複雑化する社会的現実を捉えるためにおびただしい数の社会調査が実施されているが、その一部に、しばしば方法上、倫理上の問題点が指摘されるようになり、企業内、あるいは社会全体として、社会調査の質的な改善や水準向上が求められるようになってきたという背景がある。この現状に対して、社会調査に対する教育体制を整備し、科学的な社会調査を担える人材の育成を組織化し、その専門的職業としての資格の制度化を図ることを目的に、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の3学会が、2003年11月に「社会調査士資格認定機構」を創設し、かかる人材の育成にとりかかったのが、社会調査士資格制度である。

「社会調査士」は、企業や公共団体で実施される社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力と倫理観を見つけていることが要求される。そのために、

① 標準カリキュラム A～G に対応する科目単位を取得すること（表 1）

② 大学を卒業すること

が取得の条件となっている（「専門社会調査士」はより上位の条件が課せられている）。

①の科目履修は、認定機構に認定を受けた科目を設置している大学（参加大学）ならば、全国どこで単位をとってもよい。資格取得には、調査に関する5科目と実習1科目の単位取得が必要であるが、認定科目を3科目以上単位取得し、2科目以上履修中である3年生以上の在学生には、就職活動等に活用できる「社会調査士資格（取得見込み）」証明書が発行される。

2006年12月現在、「社会調査士」は、取得者1615人、参加大学128大学、「専門社会調査士」は、取得者735名、参加大学35大学であり、関心の高さと広がりが年々増加している。

表 1：社会調査士 標準カリキュラム

分類	内 容	本学科での認定科目 ( )内は学年
A 社会調査の基本的事項に関する科目 (90分×15週)	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学習する。	社会調査法 (1)
B 調査設計と実施方法に関する科目 (90分×15週)	社会調査によって資料やデータを収集し、分析する形で整理していく具体的な方法を学習する。	社会情報入門 (1)
C 基本的な資料とデータの分析に関する科目 (90分×15週)	官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学習する。	データ解析基礎 (1)
D 社会調査に必要な統計学に関する科目 (90分×15週)	統計データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を学習する。	データ解析システム (2)
E 量的データ解析の方法に関する科目 (90分×15週、Fと選択制)	社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析について、その基礎的な考え方と主要な計量モデルを学習する。	行動計量学 (2)
F 質的な分析の方法に関する科目 (90分×15週、Eと選択制)	さまざまな質的データの収集方法や分析方法について学習する。	民族・民俗学演習 (3)
G 社会調査の実習を中心とする科目 (90分×30週)	調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。	社会情報実習α (2) 社会調査実習 (3) (両科目とも履修)

### 2. 社会情報学科の取り組み —社会調査士の養成—

社会情報学科では、2004年カリキュラムから、「社会調査士」標準カリキュラム対応科目の認定を受け（表1の最右列の各科目）、それまでの社会調査に関する教育に加え、より高いレベルで「調査の専門家」の人材育成に取り組んでいるところである。学生たちも、認定科目授業への参加意欲や授業内容への関心が高くなり、現時点で3、4年次生合わせて69名が資格取得見込みの申請を行っている。今後は、社会における本資格制度の認知度をあげる努力と、資格を取得した卒業生たちが調査の現場で活躍することを期待するところである。